

字分け

## 骨

この字は 2011 年 11 月 10 日 午前 7 時 36 分に意識に流れ込んできたものです。  
骨という字と Bone という英単語とが一緒になって来ましたので両方を字分けの対象としました。

その前に骨を使った日本語の表現をいくつか見てみましょう。

骨身に沁みて感じた  
骨に徹して分かった  
骨のある人だ  
骨が折れる  
肉を切らせて骨を切る

このように芯からとことん何かを知るという場合は単に身に沁みるのではなく、骨にまで達する深さで知るという意味合いになるようです。また人間の性格として、何事にも屈しない強い気力、確固とした信念を持つ人のことは骨があると言います。非常に困難である場合は骨が折れると言います。建物を支える中核も骨です。肉が切られても命とりではなが骨だと致命傷というのも骨の重要性を示しています。

では、この骨という字を分けて見ましょう。

光	コ		ホ	本	秀
通	ツ	骨	ネ	音	

まずはホネという音に本音と当てました。本音を吐くとか本音で生きるというように真実の言葉、あるいは心からそのように思っていることを口にするを言いますね。またホには秀も当てられます。「秀音」ですので至高の、言い換えれば Top の音とも解せます。トップの音とは絶対至高の速度を持つ音を指しますので、これは「光透波」の音です。次は音読みのコツを見ましょう。光通と当てられます。

ではこの「光透波という光に通じている（光通）」と言うのはどういう意味でしょうか。

何かがどういうものであるかと考える時、命波では「そうではないものはどんなものか」と考えます。そこで、「光に通じていないものは何か」を端的に言いますと、虚偽の世界であり、それは美しい光の世界とは違うということです。虚偽は暗く、胸さびしく、心が縮かむような、拘束的で不自由な世界で、そこは圧政と欺瞞と、残虐と陰謀と、搾取と絶望と苦悩が渦巻く世界です。おそらく今の世界はどちらかと言うとこちらになっていると思います。経済を見てください。戦争は終わっていますか。働き続けても生活はあまり楽ではなく、食べ物は農薬や添加物という毒や放射能混じりで、結果的に体は壊れている。環境もひどい状況で、毎年猛暑の夏で焦熱地獄のなかをそれでも毎日仕事に行かなければ生活できない。イライラした人が多く、家族関係はあまりよくありません。親子の間でも信頼と愛情と思いやりは少なく、会話もあまりないという例が多いのではないのでしょうか。

これは真実が隠され、見えなくなっている世界だから起きたことなのです。真実の世界とは光に通じていて、何も隠されてはいない世界です。真実はそれ自体が愛であり、思いやりであり、喜びであり、智慧なのです。真実の光、つまりエネルギーは温かく、軽やかで、自由で、楽しく、胸躍るような力を持っています。誰も誰かを意図的に傷つけたり、苛めたり、騙したり、圧力をかけたり、したくないことをするようにと強制したりしません。今の世界と大分違いますよね。

さて、字分けに戻ります。骨という字が「光に通じている」本音、つまり真実の音で、至高の速度を持つ音だと読み解けました。次に英語を見て見ましょう。BONE ですが、これはボオンと発音します。これを見た途端に私は「ギョエっ」と仰天しました。

母 音

ボ オン

B O N E

母音じゃないですか。読み音がですよ。

さて、日本語は母音語です。一つ一つの音節が伸ばせば母音で終わる「開音節」言語です。世界広しといえどもすべての音節が、例えば「カ」ならカーと伸ばせば母音に帰する言語は日本語だけだということに着目し、75の音節と閉じた音である、「ン」を合わせて76の音に意味をつけていたら宇宙のエネルギー構造とその動きが分かったとされた小田野早秧の理論が命波理論ですよ。

さて、この「76音からありとある全てのものが産まれてきた」というのが命波理論の提唱ですが、何と、産まれるということを英語ではBORNと言うのです。そしてこれも

発音はボオンなのです。母音じゃないですか。再び「「ギョエッ」

## 母 音

## ボ オ ン

## B O R N

何とうまくできていることでしょうか。字を分ければ、そして音を検証すれば真実や真理が眼前に展開するのです。そのように作られているのが文字なのです。

独りで興奮していてもつまらないので、私はこのように他の方々にも発見したことをお伝えしている訳です。これはコミュニケーションです。人間は何かを発見すると猛烈にそのことを他の人に伝えたくなるように作られているようです。特に私は知っていることを黙って胸しまっておくことが出来ない性格を持っています。さて、この発見を他者に伝える際に使うものは言語です。言葉です。とくに文字による文章は便利です。耳で聞いたことがらは録音していない限りはその場で消えてしまいます。時間が経てば内容も大方忘れてしまいがちです。文はそうではないですね。後に残り、いつでも読み返して確認できます。文は力なのです。文字によって他者へ伝えて行く内容は情報であり、情報は力なのです。ちなみにこの情報という熟語を見てください。

「情報」、情、な<sup>さ</sup>けに報<sup>い</sup>ると読めます。情とは感情の情です。心が動いている状態です。感情には様々な名前がついていますが、人間の情にはあまりありがたくない、むしろ感じたくないような情もあります（実はどれもがありがたい学びのきっかけなのですが）。しかし絶対至高の光である天の実親の慈しみの情は誰にも平等に、無限に供給され続けていて、それによって私達は生かされている訳です。この情というな<sup>さ</sup>けに報<sup>い</sup>るのが情報だと言うのは実はすごい意味を持っているのです。情報を伝え合う、話し合う、発見を共有する（今私がしていることもそうです）、また、愛し、気遣っているという気持ちを表現し、相手に伝える、これらの行為が天に報<sup>い</sup>る行為だと字が教えてくださっているのです。話をする際に何が起きているかと言いますと、エネルギーが放たれているのです。励ましの言葉を放てば相手は勇気づけられたり、元気になったりします。激しい叱責や非難の言葉を放てば相手は傷つき、意気消沈します。このように強い影響力を持っているということは言葉にはパワーがあるということなのです。どれほどパワーがあるかということに人間は気づいてきて、意図的に治療にも使われるようになりました。神経言語プログラミングもその一例です。先般ご紹介した「白馬」の騎手には口から剣が出ていて、その人の名は「真実」「誠実」、あるいは「神のことば」であるとありましたね。

ともかくそれほどのパワーをもつ言葉というものを扱うべく作られている人間は、言うなれば「両刃の剣」を持っていることとなります。この剣を正しく使うということが肝要なのです。本音で生き、本音を言い、本音で人と、いやそれ以上に必須なのは自分と向き

合うということが正しく剣を使うということなのです。自己欺瞞と他者への嘘が招いた今の人間社会を見ればそれがよく分ると思います。私は今年の課題は何よりも「自分の内面と本腰を入れて向き合うこと」と決めました。

菊池 静流

2012.2.20 記